

① 生徒の個別支援に取り組むきっかけは—

本月形高校への転勤をきっかけに、特別支援教育コーディネーターを命じられました。

② 生徒の個別の支援への取組を通じて、達成したこと、満足したこと、うれしかったことは—

本校の特別支援体制のスタイルを構築し、障がいのある生徒も不登校であった生徒も、家庭環境が恵まれていなかった生徒も、すべての困り感を持った生徒を支援対象としてきたことです。

個別の教育支援計画は従来から作成してきました。今年度は、それらを基に保護者・生徒の承諾を得て、就職先企業や進学先への引き継ぎ資料として活用することができました。生徒自身が自分の成長を感じて卒業してくれる時、保護者が月形高校の教育に対しての信頼を寄せてくれている言葉を聞いた時、私自身うれしく思います。

③ 取組を進める上で、苦勞したことは—

個別の教育支援計画は、入学から卒業までの様々な取組について、授業、放課後学習、観察、面談を繰り返してきた3年間の集大成です。本校独自のスタイルを作り、保護者も生徒も納得できる内容にまとめて、かつ、生徒の困り感と支援の基本となることを網羅していなければならないという条件を満たしているものを学校が用意できるかという点が大変難しかったのです。本年度は、担任の協力を得て8名の支援計画を進路先へ引き継ぐことができました。

養護教諭の立場で、進路指導や授業、支援のあり方や生徒指導にも意見や助言するということが、職員からは高校教育の範疇を超えると反感を買うこともあったのではないかと思います。

本校に赴任し、コーディネーターになりたての頃は、本校に指導のために頻繁に来ていただいた当時のSV（中川正規先生）の後ろについて、授業での生徒観察の観点や困り感を見つける方法等を口頭で説明いただいたものを必死にメモをとり、勉強しました。長い年月パートナーティーチャーとして生徒に寄り添っていただいた北海道新篠津高等養護学校の小原先生、西尾先生をはじめとして多くの教育関係者の皆様、関係機関や就労支援でお世話になった皆様、校内研修の講師で来ていただいた皆さんからエネルギーをいただき、本当に励まされ、今日まで頑張ることができました。

④ 取組を進める上で、日頃から心がけていることは—

本校で、当時SVをされていた中川正規先生にご講演いただきました。そのお話の中で先生は、「コーディネーターが100歩先を歩くよりも、職員全員が1歩進むことを目指してほしい」と話されていました。そのことを念頭に置いて活動してきたと思います。

コーディネーターとして活動していること、養護教諭、保健主事、教育相談係、生徒指導部員として様々な立場から発言する際、言動が終始一貫していること、迷っても方向性はぶれないことを信条として働いてきました。

⑤ 今後の取組については—

今後、私が退いた後、本校の生徒ひとりひとりを大切にしている今の支援体制のレベルを落とすことなく、次の世代に繋ぐために、もう少し頑張りたいと思います。